

上部内視鏡(胃カメラ)検査説明・同意書

上部内視鏡検査は、内視鏡を消化管(食道・胃・十二指腸)に挿入して、炎症性疾患・ポリープ・潰瘍・癌などの病変の有無を調べる検査です。

- ・ 緑内障【閉塞隅角】 → (**あり** ・ なし)
- ・ 抗血栓薬(血液をサラサラにする薬)の服用 → (**あり** ・ なし)

※「**あり**」と答えた方は、下記該当する□にチェックをお願いします。

☐ 抗血栓薬を主治医と相談し、以下の期間休薬しています。

① (薬名:) 月 日から休薬しています。

② (薬名:) 月 日から休薬しています。

※休薬については、自己判断ではなく**必ず主治医とご相談**ください。

※休薬の間、脳血栓などの閉塞症を起こす危険性が高くなりますので、十分ご注意ください。

☐ 抗血栓薬を服用しながら検査します。 (薬名:)

血栓による病気予防のため、抗血栓薬を服用されています。抗血栓薬には抗凝固薬(ワーファリン)と抗血小板薬(バイアスピリン・プレタールなど)があります。抗血栓薬を中止すると脳梗塞や心筋梗塞などを発症するリスクが高くなります。よって当院ではガイドラインに基づき、抗血栓薬を1剤のみ服用されている患者様には診断上必要な生検などを行います。

②検査の注意事項

■検査後に腹部膨満や注射による眼の調節障害が続くことがあります。→検査後、眼痛・頭痛・眼の充血・かすみなどが同時に出現する場合は早急に眼科受診して下さい。

■鎮静剤を使用した場合、検査当日から車・バイク・自転車・電動車いすなどの運転は24時間控えてください。

■検査中に必要に応じて、以下のことが行われます

○組織の一部を鉗子でつまみ、**組織検査**を行う(生検)→ **費用発生**致します(裏面参照)

○色素をかけて診断の補助を行う(色素撒布)

○出血などがみられた場合には、**止血操作**を行う(内視鏡的止血)→ 薬剤使用のため**費用が発生**致します

■細心の注意を払いながら内視鏡検査は行われますが次のような危険性が報告されています。

万一、緊急事態が生じた場合には、その治療に全力で責任を持ってあたります。(処置費用は保険適応です)

1) のどの麻酔薬や鎮静剤によるアレルギーショック

2) 内視鏡による粘膜の損傷や穴があく(穿孔)こともあります

3) 生検や粘膜切除による出血

4) 検査前からあった疾患の悪化など

説明担当者

／中院

■同意書■

私は内視鏡検査の必要性和危険性及び生検時の費用負担について説明を理解し、必要であると判断しましたので、消化管内視鏡検査を受けることに同意します。万一、緊急事態が生じた場合は、その治療を受けることに同意しま

す。 ☐ 同意します ☐ 同意しません

年 月 日 氏名